

月報 シオン山

2025年8月3日発行 (No498)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

平和を実現する人々は、幸いである、

その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、

天の国はその人たちのものである。

(マタイによる福音書5章9～10節)

「平和を考える」

山下一恵

8月15日、そして2月11日 わたしの記憶では父が靖国問題の活動をしていたので、この2日間は、私の家族は講演会に出向くことが多かった。会場場所で覚えているのは日本キリスト教団小倉教会だ。そして、講演会終了後に講師の方の持参された本を売る手伝いをしたように思う。

わたしは、父からの影響で日の丸君が代の問題のその本質は、しっかりと意識されないながらも、肌でこれは正しいことではないということを幼い時から父の後ろ姿を見て感じてきた。
例えば、テレビで君が代の国歌斉唱が始まると、父がテレビのチャン

ネルを変える、また、妹の小学校の運動会で、国歌斉唱があり起立と言われたときに、父が「立たない」といい、それに従った記憶は鮮明に残っている。

さて、2025年8月11日（月）13時から15時シオン山教会にて「これまでのヤスクニ、これからのヤスクニ」と題して藤田英彦東八幡協働牧師が講演をされる。

今までは、そこまで意識していなかったが、この日に出席することになっている私は、靖国問題を自分の事として聞くために、事前に内容を自分なりに調べて、この講演会に望みたいと思う。

8月9日は長崎に原爆が投下された日、そして、父の命日である。この原稿を書くにあたり、西南女学院月報 1995年8月号を読む機会を得た。父が学院宗教主任の時代に書いた文章である。そこには戦時中の西南女学院の歩みが書いてあった。県と軍の要請では、西南女学院が全徴用となる事。生徒は転校、職員の再雇用先は面倒を見るとの申し出であった。理事会でもそれしか道はないという結論に達し、父母会代表も加わっての最終決定の段階で急展開がおこった。

それは、西南女学院と運命を共にするから廃校ではなく存続をとという申し出であり、全生徒がそれに従った。その後存続のため、代用校を探すという時に、近隣から申し出があった。

現小倉高校の中村校長から小倉中学の明陵会館を、現小倉西高校の城戸校長から体育館を、そして明恩寺の内藤住職から木堂をとというものであった。こうして市内3か所での分散事業が開始されたのだった。この内藤住職の多分お孫さんは、わたしが到津小学校の時の同級生でお寺によく遊びにも行っていました。この件は今回初めて知ったことでした。

そして、8月9日の長崎への原爆投下の件では、第一候補地の小倉に投下されたら、爆心地は勝山公園一帯であった事。西南女学院は壊滅状態であつたろうと予想されたこと。

このような戦時中の出来事を考えると西南女学院は何とか生き延びた、それは神さまが必要とされたから。

そして、神と人に使える働き人の養成が神さまによって示された使命と信じると結んでありました。

2025年の8月を迎えるにあたり、戦後80年という節目にこのような機会を頂いたこと、平和についての考えを新たにすることが出来ましたことに感謝いたします。

『キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。』

コロサイの信徒への手紙 3章15節